

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校

強き信念(まこと)と 高き理想(のぞみ)を持つ生徒が育つ高等学校

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校
2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性を涵養する学校
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

2 中期的目標

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校

- (1) 新たな大学入試制度に対応し、次期学習指導要領を見据えた教育課程の編制と授業の充実。
 - ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。
 - イ 全クラス文理学科移行にあわせて、探究的な学びの充実をはかる。
- (2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)、スーパーサイエンス・ハイスクール(SSH)としての学力向上に係る内容の充実。
- (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。
 - ア 年間計画の充実と一層の進路指導の情報提供に努める。
 - イ 国公立大学志望90%という生徒の進路希望の実現を支援する。
- (4) 英語コミュニケーション能力の育成
 - ア 4技能(聞く、話す、読む、書く)統合型授業の充実を進め、実践的英語力の向上を図る。
- (5) ICT化対応の教育の推進と効果的な65分授業の実施
 - ア 授業におけるICT化を進める。
 - イ 教員研修の充実等により密度の濃い65分授業を行う。

2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性を涵養する学校

- (1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させうる生徒を育成する。
 - ア 1年次部活動加入率90%以上を維持する。
 - イ 取組み内容の精選を行い、自主的活動全般のレベルを上げ、意欲につながる充実感を持たせる。
- (2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。
- (3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。
- (4) 指導体制を確立し、通級指導を実施するとともに取組みの学校教育全体への波及を図る。

3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

- (1) ボランティア体験活動や授業や行事などを通じて、社会貢献の意識を高める。
- (2) 海外派遣研修や海外の高校による学校訪問(受入)等により、国際感覚の向上に努める。
- (3) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を充実させていく。

4. 校務処理の効率化などによる働き方改革の推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼすべての項目で生徒の肯定的回答の割合は高まった。 ・学力および進路に関する取組みにおいても、学校の指導に対する納得感と信頼感が引き続き高まっているといえる。課題は、これらの結果として進路実現を果たし、第一志望の実現が果たしているかどうかは課題となってくる。 ・豊かな人間性を涵養するための学校行事の充実、生活規律の確立、人権教育や生徒支援の取組みも前進し、肯定的回答の割合を大きく伸ばした項目もあった。単年度の取組みとしないよう成果の継承が課題である。 ・国際感覚を育み、社会貢献意識を高める取組みも充実してきたことの成果が、生徒の肯定的回答の高さとなって表れている。 ・例年同様、保護者からは高い割合で肯定的回答をいただいた。 ・次年度は、今年度の成果を継承できる体制作りが課題である。その際、時間外勤務の削減にもつながるように進めていく必要がある。 ・また今後は分析指標も肯定的割合だけでなく「特にそう思う」「まったく思わない」の割合にも注視し、より深い分析を行っていきたい。 	<p>第1回(令和元7月10日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上位層を伸ばし、下位層をサポートするためのビジョンを持ち、「ここまではできるように」という到達点を明確にすることが重要である。中高一貫校の私立に負けない、公立高校の指導として、浪人してでも行きたい大学を受験する指導も必要ではないか。 ・高校入学までに叱られた経験があまりない生徒も多い中で、たとえば遅刻指導の際に「規則だから」ではなく「遅刻がなぜいけないのか」を生徒に理解させることが大事である。 ・行事で、短時間でクオリティーの高いものを仕上げていっているのは、大手前の良い点である。 <p>第2回(令和元年11月22日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級による支援は、対象の生徒だけでなく多くの生徒にとって意義がある。多様性を学校や生徒だけでなく、保護者にも理解を広め、肯定的に受け止められるようにすべきである。 ・大学でも、学力と研究意欲が一致していない生徒が多い、大手前のコース分けは「意欲重視」であることは意味がある。 <p>第3回(令和2年2月14日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三者懇談の実施形態や担任からの指導など、学年や学校として統一感を持たせていく必要がある。また、進路関係の情報や、各時期における学校での指導の力点など、保護者にさらに伝わるような工夫が必要である。学校への信頼を高め、塾に負けないようにするためにも、講習の在り方も見直しが必要。 ・小さいころから「与えられたものを丸呑みする」習慣が身につけている生徒も多い。それでは大学では伸びない。SSHの取組みや課題研究でも、どんなことをして、それが将来どんなことに結びつくのかを理解させていくことが大事ではないか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校	(1) 学力の充実と進路希望の実現		※()内は 30 年度のデータ	
	ア 学習指導方法の更なる工夫と改善	ア 授業改善 ① 日常的な授業見学(パディシステム)や研究授業の実施などにより、自らが積極的に日々授業改善に取り組む ② 学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や、補習・講習の充実に努める。 ③ 校内教職員研修を充実させる A. 経験豊かな教員による個別研修 B. 定時制教員や他校教員との合同研修	・授業アンケートによる肯定的評価 87%以上(2回平均 85.3%) ・学校教育自己診断の関連項目の向上「わかりやすく興味深い授業」(91.0%) 「到達度の低い生徒への指導」(76.6%) ・研修実施回数と教職員アンケートの授業改善に関する項目の肯定率の向上(個別研修9回・合同研修3回実施)	・授業アンケートにおける肯定的評価は 88.6%となり、目標値を達成した。(○) ・授業相互見学も定着し、授業改善が図られた結果、わかりやすく興味深い授業」91.2%、「到達度の低い生徒への指導」77.8%と微増した。(○) ・経験豊かな教員による個別研修を9回、他校教員との合同研修を4回実施し、他校の実践に学んできた。定時制とは防災教育の合同研修を行った(○) ・研究活動では、全国レベル3名、府レベル18名の受賞があり、コンクールやコンテストへの積極的な参加が促進された。(△) ・各コースの基本プログラムができた。(○)
	イ 全員が課題研究に取り組むための指導体制の確立	イ 課題研究の指導体制 ① SS コースの研究レベルの向上 ② LS コースの指導プログラム作り	・コンクールやコンテストの受賞数の増加(全国レベル5人、府レベル19人) ・SS・LSコースの指導プログラムの完成	・生徒及び教職員の SSH・GLHS の取組みへの肯定度はそれぞれ 80.2%、83.1%と向上した。(◎) ・進路研修の実施とともに、12月に2年生の進路希望動向や学習状況の把握に基づく方針確立のための検討会議を新たに実施した。(◎) ・国公立大学進学率は65%であった(△) ・1月センター後講習見直しはできなかった。(△)
	ウ 明確な進路目標をもたせるための指導と、進路実現を図るための指導の充実	ウ 進路指導 ① 集中セミナー、サマースクールの充実 ② SSH 事業における研修(東京・豪州)やマifestaなどの実施 ③ 粘り強くチャレンジする意識のはぐくみ ④ 進路実現に向けた研修や講習の実施	・学校教育自己診断での生徒・教職員アンケート「GLHS、SSH の取組み」肯定率の向上(それぞれ 75.9%、76.9%) ・進路研修の実施回数(31回) ・国公立進学率現浪合わせて70%の実現 ・1月センター後の講習の見直し	・4技能を身に付ける授業を実施し、2年生全員がA2以上のスコアを獲得した(○)
エ 英語4技能の身につけるための取組みの充実	エ 英語4技能の取組み ① GTEC 受験など外部検定の実施 ② 4技能を身につける授業の促進	・外部検定のスコアの上昇 GTEC での全員 CEFR A2以上の維持	・ICT活用については、生徒93.5%、教職員97.7%と向上し、活用が促進された。(○)	
オ ICT 化の活用と 65 分授業の効果的な実施	オ アクティブラーニング ① 授業の ICT 化の促進と密度の濃い 65 分授業の実施	・学校教育自己診断関連項目の向上(生徒 91.9%、教職員 95.8%)		
2 豊かな人間性を涵養する学校	(2) 豊かな人間性の涵養			
	ア 学校行事や自治会・部活動の取組みの充実	ア 行事と自治会・部活動の充実 ① 行事や HR 活動を精選し充実させる ② 部活動入部を促進する	・行事の内容を見直し精選する。 ・学校教育自己診断の関連項目の向上(HR80.2%、行事 80.5%、自治会 76.2%) 学校生活満足度 90%実現(88.1%) ・部活動入部率 90%以上維持(94%) ・遅刻回数 2500 回以内の達成(3483 件)	・行事精選とともに自治会の指導力を高めることにより、肯定度が HR 活動 83.0%、行事 85.6%、自治会活動 85.7%と全てで向上した。学校生活全体の満足度も 89.5%に向上した。(◎) ・部活動入部率も 90%を維持した。(○) ・遅刻総数は 12 月末で 1820 件で昨年同期約 28%減となっている。(○)
	イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上	イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上 ① 遅刻を減少させる	・SC 配置の継続と回数・内容に関する学校教育自己診断の肯定的回答率の向上(相談件数 100 回) ・通級指導教室の開設と指導の開始	・SC の相談件数は 12 月末で 52 件あった。相談にかかわる肯定的回答も 90.4%と向上した。(○) ・通級指導の取組みも計画通り実行でき、進路保障も実現した(◎) ・外部の講演以外の取組みも充実し、人権教育の満足度 95.0%、いじめ対応 88.7%といずれも向上した。(○)
	ウ 教育相談と通級指導の連携による生徒支援の充実	ウ 生徒支援の充実 ① 教育相談体制を充実させる ② 通級指導教室を開設し支援に取り組む	・学校教育自己診断の関連項目の向上(人権学習 88.4% いじめ対応 86.6%)	・図書委員会は 28 人となったが、例年同様の活動実績を残してきた。(△)
エ 人権尊重の意識の向上	エ 人権 HR などの充実 ① 仲間の思いのわかる集団作りを進める ② いじめや人間関係トラブルへの組織的対応	・委員会活動の実績と人数の増加(34人)		
オ 図書館の活用促進	オ 図書館の活用 ① 委員会活動の活性化と利用促進			
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校	(3) 社会貢献活動の推進			
	ア 社会貢献の意識の高揚	ア 社会貢献活動の充実 ① ボランティア体験活動の実施	・ボランティア参加人数の増加(10 団体 165 人)	・予定した 10 団体 150 人のボランティアだけでなく、新たに大阪城公園の落ち葉清掃を実施し 180 人以上の生徒が参加した。(◎)
	イ 国際感覚の向上	イ 国際教育の推進 ① 海外生徒派遣研修(豪州、シンガポール、アメリカ)の実施 ② 姉妹校(英国ペンギライス高校)との交流、来日高校生との交流の実施	・実施の有無と、学校教育自己診断の国際教育に関わる肯定度の向上(生徒 81.6% 保護者 94.3%)	・4つの海外研修と英国交流を実施し、延べ 193 名が海外で学び、グローバル人材育成や語学力の向上の取組みが進んだ。肯定度も生徒 84.6%、保護者 96.9%と向上した。(○)
ウ 地域と連携した教育活動の充実	ウ 地域との連携 ① 保育所等交流、弁護士会、税務署などの地域を舞台にした教育活動の実施	・各取組みの実施状況	・地域の資源を活用し学ぶ取組みも予定通り実施し、人間性を育む取組みが進んだ。(○)	
4. 働き方改革	(4) 働き方改革の推進			
	ア 校務処理の効率化	ア 校務処理等の効率化を進める	・時間外勤務の削減(平均 30 時間削減)	・時間外勤務は昨年同期比、全職員平均で 4 時間程度しか削減できていない。(△)